

久留米 とんこつ 戦略プラン

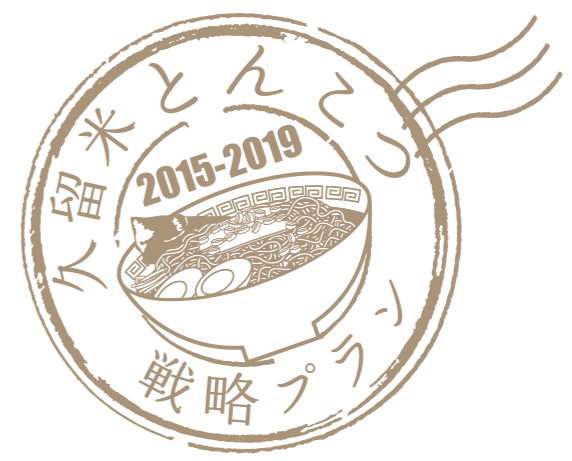
2015 - 2019

久留米市観光・MICE戦略

〈 概要版 〉



 久留米市



 久留米市



市長あいさつ



久留米市長
橘原利則

久留米市は、九州一の大河筑後川や耳納連山に抱かれ脈々と受け継がれてきた人々の営みと、新しいものを創り出す情熱、それを受け入れる大らかさから生み出された、さまざまな魅力があふれるまちです。また、古くから、外からのお客様をあたたくもてなす気風が培われてきた「ほとめきのまち」でもあります。

これらの特色は、人口減少による地域経済の縮小が懸念され、観光や MICE の振興による地域活性化が非常に重要な課題となっている中で、交流人口の拡大を図る上での大きな強みになるものと言えます。さらに、平成 28 年には久留米シティプラザが開館、平成 31 年には久留米総合スポーツセンターの改築が完了し、国内外からより多くの方に来ていただくための環境が一層充実します。

このたび、久留米市が持つさまざまな魅力を久留米の代表的な食である「とんこつラーメン」の魅力と結び付け、「久留米とんこつ戦略プラン」を愛称とする「久留米市観光・MICE 戦略プラン」を策定いたしました。

持てる強みを最大限に活かし、より多くの方に久留米市を訪れていただくことで、「活力あふれる中核都市久留米」が実現できるよう、市民の皆様とともに取り組んでまいりたいと考えておりますので、一層のお力添えをお願いいたします。

平成 27 年 3 月

ほとめきコンシエールジュ

基本理念

久留米市には、筑後川に育まれた豊かな自然をはじめ、歴史や文化、食などのさまざまな魅力があります。こうした魅力を活かしながら、これまでも他の地域との連携や情報発信などに意欲的に取り組んできました。

そうした中で、観光スタイルの変化や外国人旅行者の増加など、観光を取り巻く状況は大きく変わってきています。また、人口減少社会への対応として観光が大きく注目されてきており、観光客の取り込みをめぐる競争は一層激しくなると予想されます。

今後、久留米市が観光・MICE の振興を図るためには、私たち一人ひとりが、久留米を訪れた人をお客様本位の目線で迎え入れ、「また来たい」と思ってもらえるような満足感を提供することが重要です。

そのためには、外から来た人に、「ほとめき」の心と、豊富な情報と知識で質の高いもてなしを提供する「コンシエールジュ」のサービスにより、「久留米らしさがあふれる魅力」を提供し、大きな感動を得てもらうことが大切です。

そこで、市民みんながより深く久留米の魅力を感じ、来訪者に伝える「ほとめきコンシエールジュ」として活躍するまちを目指すこととします。これにより、久留米らしい観光・MICE の振興を図り、交流人口の拡大と賑わいの創出による、地域と地域経済の活力向上に努めます。



久留米とんこつ戦略プラン

基本理念

基本方針

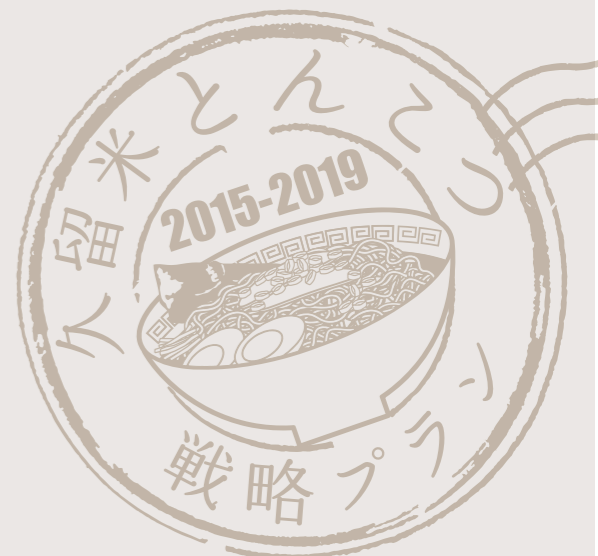
1. 地域資源を活かした観光の推進
2. 戦略的な広域観光の推進
3. ほとめきあふれるインバウンド観光の推進
4. 戦略的な MICE の誘致
5. ほとめき人材の育成と組織づくり
6. ほとめき観光の基盤づくり
7. 観光客のニーズをふまえた情報戦略

リーディングプロジェクト

- I. 久留米を楽しむ！
—くるくるチケットプロジェクト—
- II. 久留米を周遊る！
—ぶらぶら耳納北麓プロジェクト—
- III. 久留米を輪る！
—すいすい自転車プロジェクト—
- IV. 久留米に集まる！
—くるくる MICE プロジェクト—

基本理念に掲げる、ほとめきコンシエールジュが提供する「久留米らしさがあふれる魅力」とは、先人から引き継いださまざまな魅力をさらに味わい深くしていることなど、久留米の代表的な食「とんこつラーメン」の魅力と共通しています。そこで、戦略的に観光・MICE を推進するための本プランの愛称を「久留米とんこつ戦略プラン」とします。

プランの愛称 久留米とんこつ戦略プラン



「久留米らしさがあふれる魅力」とんこつ」とは…

- 自然や風土、食、農…さまざまな素材が絡み合い引き立てあう魅力 ↓濃厚・白濁
- 歴史や文化、芸術、産業などを先人から受け継ぎ、さらに深まる魅力 ↓呼び戻し
- 「ほとめき」の心あふれる市民が温かくもてなす魅力 ↓あつあつ
- とんこつラーメンをはじめ、豚骨ラーメンや筆曲、巨峰、あまおう、正義ツバキなど、新しく優れたものを生み出す魅力 ↓発祥の地
- 中核都市として近隣市町村との連携により存在感を増す魅力 ↓焼きめしセット

1

地域資源を活かした観光の推進

今 日まで磨き上げてきた地域資源の魅力をさらに高めていくとともに、新たな資源の発掘と相互連携などに取り組みます。特に、すでに人気事業化している久留米まち旅博覧会や、地域住民と連携して取り組む地域密着観光の充実を図り、高い満足度を得られる観光商品づくりに結び付けていきます。

基本策 2 食やグルメを活かす

久留米ラーメンや久留米焼きとり、筑後うどんの「3大日級グルメ」を中心とする、久留米のご当地グルメを素材とする観光商品づくりやイベントを支援し、交流人口の拡大を図ります。

また、ほぼ年間を通じて実施できる、ぶどうや柿などのフルーツ狩りは、年々外国からの旅行者が増えています。日本有数の酒蔵数を誇る日本酒や、エツやうなぎなどの筑後川の恵みなどと合わせ、観光客をリピーター化できるような取り組みを進めていきます。

基本策 4 文化芸術を活かす

久留米市は、青木繁や坂本繁二郎などの偉大な芸術家や、藤井フミヤや田中麗奈などの芸能人を多く輩出した文化芸術のまちです。市が運営を引き継ぐ石橋美術館を含む石橋文化センターなどを活用し、久留米市の文化的な土壌を広くアピールします。また、憩いと賑わいが調和する「文化」[活力]「創造空間」を基本理念とする久留米シティプラザでさまざまな文化事業を行い、久留米市の認知度を高めていきます。

基本策 6 健康やスポーツをテーマとして取り組む

久留米つつじマーチや筑後川マラソン、筑後川くるめ菜の花マラソンなど、健康やスポーツに関するイベントには、全国から多くの参加者が訪れています。また、近年は、サイクルスポーツが全国的に広がりを見せており、「自転車のみち」と呼ばれた久留米はこの分野でも大きな可能性を秘めています。

さらに、各校区ではウォーキングなどのイベントが行われるほか、サイクルファミリーパークや百年公園サイクリングセンターなどの自転車専用施設もあり、創意と工夫により交流人口の拡大に結び付く可能性も大きくなっています。

基本策 5 歴史や伝統文化を活かす

市内に点在する古墳や史跡、高良大社や水天宮、梅林寺などの神社仏閣、伝統行事や祭りなどの地域資源を活かし、旅行事業者などと連携した誘客の取り組みや観光商品づくりを進めます。また、交流人口の拡大に結び付くと思われる取り組みについては、積極的に連携し、地域での滞在時間が延びるような仕組みづくりを進めていきます。

基本策 3 地域産業を活かす

久留米餅、藍胎漆器などの伝統産業やゴム産業、植木産業などを中心に、体験型滞在交流型のプログラムやイベントの開発に取り組みます。また、商品化が可能なものは、久留米まち旅博覧会のプログラムに取り込み、積極的に展開していきます。

また、(株)ブリヂストン久留米工場や(株)ムーンスター、(株)アサヒコーポレーション、ダイハツ九州(株)久留米工場などと連携し、新たな産業観光の商品づくりに結び付けていきます。

基本策 1 自然や景観を活かす

久留米市のシンボルともいえる筑後川やその恵みを活かす取り組みのほか、高良山や四季の花々(つつじ、つばき、コスモス、紅葉、ハゼなど)など、自然や景観を活かす滞在交流型のプログラムやイベントを推進します。また、季節や観光客のニーズに応じて、効果的なイベントの情報発信に努め、その集客効果を高めていきます。



”競争“と”協働“の視点をバランスよく活かす

戦略的な広域観光の推進

久

留米市は、これまで筑後地域の中枢都市として独自の経済圏を形成し、地域のヒト・モノ・カネの中枢を担うとともに、さまざまな分野で近隣の自治体と連携してきました。観光においては、久留米広域定住自立圏における連携や、県南市町村で構成する筑後地区観光協議会で共同の観光プロモーションを行うなど、さまざまな取り組みを行っています。一方で、日田市や鳥栖市、佐賀県などとの新たな連携による魅力づくりにも取り組んでいます。

今後も、人材の育成や基盤づくり、観光商品づくり、プロモーションなど、連携の効果が高いものについて、他自治体との連携を強化します。さらに、すでに国内外から多くの観光客やビジネス客が訪問している福岡市との連携を強化することにより、これまで久留米市を訪問する機会がなかった観光客などの取り込みを推進します。



基本

1 広域連携を強化し 魅力あふれる観光商品をつくる

耳納北麓エリア（久留米市東部くさきは市）には、日本風景街道に登録されている「みどりの里・耳納風景街道」があり、その豊かな自然とみどりの魅力を表す証となっています。GAP調査で多くの人が魅力を感じているとされた筑後川や、筑後地域を東西に横断する耳納連山など、広域にわたる地域資源を活かして、遠くからでも訪れたいと感じるようなモデルコースの造成などに取り組みます。また、ターゲットに合わせた新しい発想による広域連携を模索し、研究していきます。

基本

2 交通事業者とさらに繋がる

久留米市は、九州新幹線やJR鹿児島本線、JR久大本線、西鉄天神大牟田線、九州自動車道などが走る、九州のクロスポイントに位置しています。また、九州の玄関口といえる福岡空港や、羽田便・成田便に加え国際便も就航している有明佐賀空港と車で1時間圏内にあり、150万都市の福岡市とも電車で30分圏内という交通利便性に恵まれています。

これらの地の利を活かした誘客のためには、交通事業者との連携は重要な視点と言えます。これまでも、「田主丸フルーツ狩りきつぷ」や「くらの細道きつぷ」などの連携事業を行ってきましたが、今後もさらに交通事業者との連携を強化し、交流人口の拡大に結び付けていきます。

基本

3 福岡市とさらに繋がる

国の「グローバルMICE戦略都市」にも選ばれ、高い集客力を持つ福岡市との連携を深め、相互に補完し合いながらも、本市ならではの素材を活かす差異化を図り、相乗効果を生み出せる取り組みを展開していきます。特に、(公財)福岡観光コンベンションビューローとは情報の共有や連携強化により、福岡市における大規模なMICE開催やアフターコンベンションなどで協力して取り組み、福岡市や久留米市を訪れた人が満足して帰ることができるよう、連携していきます。

国・九州各県・各都市の動向把握と連携で促進する

3 ほとめきあふれる インバウンド観光の推進

国 による「ビジット・ジャパン・キャンペーン」推進などの背景をふまえ、久留米市においては(一社)九州観光推進機構や県などと連携し、韓国やタイなどの旅行事業者へのプロモーションに積極的に取り組み、久留米市及び筑後地域への外国人観光客の呼び込みを図ります。そのためにも、久留米市の魅力や個性、持ち味などの情報を伝え、効果的な観光誘客を図ります。

1 受け入れ体制を充実する

JR久留米駅と西鉄久留米駅の観光案内所には、外国人旅行者の周遊を支援する広域情報拠点(日本政府観光局が認定する「カテゴリー2」の観光案内所)として、英語で対応できるスタッフが常在しています。今後は、多言語による道路サインやWi-Fi環境、消費税免税制度やデビットカードが利用できる環境整備を一層進めていきます。また、各国の言語に対応できる人材の育成や確保、観光施設や宿泊施設における外国人観光客に対する接客技術の提供と学びの場づくり、地域経済に対する波及のための意識づくりなどにも取り組んでいきます。さらに、平成25年度に開始した留学生による観光サポーター制度の充実を図るとともに、在住外国人の活用の仕組みづくりを展開していきます。

基本

2 多言語による情報発信を強化する

観光パンフレットやウェブサイトの多言語化、誘客ターゲット国でのウェブサイトの開設など、発地及び着地での情報発信を充実させます。特に、スマートフォンなどの多機能携帯電話向けの情報発信を強化します。

また、市内や福岡市など周辺都市圏在住の留学生などに対して、アクセスしやすくなる魅力が詰まった情報を提供することで、外国人のSNSネットワークを活用した海外への情報の拡散を図ります。

基本

3 連携したプロモーションを強化する

日本全体で見ると、タイやインドネシアからの入国はビザが緩和されるなど、東アジアからの観光客の増加が著しくなっています。

久留米市はこれまで、(一社)九州観光推進機構や県、(公財)福岡観光コンベンションビューローなどと連携し、韓国やタイなどへの観光プロモーションに取り組んできました。今後も情勢の変化に素早く対応し、連携先との情報共有を緊密にしながら、的確なターゲットの設定や相手国に合わせた観光素材の提案に努めます。

基本

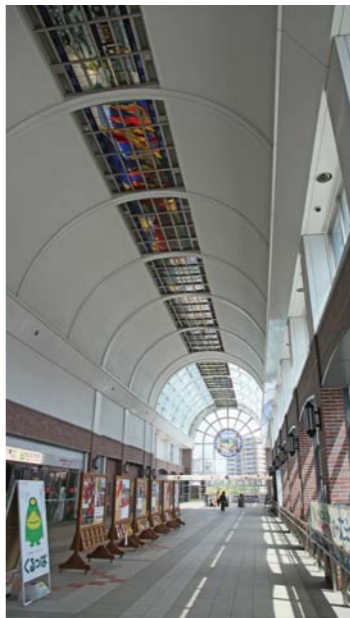
4 ニーズに対応した観光商品をつくる

海外からの誘客のためには「そこへ行きたくなる」魅力が不可欠です。広域連携や地域資源の磨き上げによる地域の魅力向上とあわせ、外国人観光客のさまざまなニーズを可能な限り把握し、観光振興に携わる組織や人材に情報提供します。あわせてそれぞれのニーズに応じた観光商品の提供に努め、生活習慣や文化の違いなどもふまえて、これまでの概念にとられない新しい観光商品の開発に積極的に取り組みます。



戦略的なMICEの誘致

4



基本策 1 久留米の強みを活かしたMICEを誘致する

久留米市は、従来から株式会社ブリヂストンや株式会社アサヒコーポレーションなどのゴム産業が集積する都市として発展を遂げてきました。また、がんの第4の治療法といわれるがんペプチドワクチンの開発に取り組む久留米大学医学部などに代表される、先端医療の集積地としても知られています。加えて、近年では、県と連携して福岡バイオバレープロジェクトに取り組み、バイオ産業の集積も図っています。

こうした強みを活かしたMICEの誘致を図るとともに、地域産業への影響が期待できるMICEの誘致を推進します。

また、スポーツ施設を活用し、体育協会や競技団体と連携したスポーツコンベンションの誘致、開催を推進します。

基本策 3 久留米総合スポーツセンターにスポーツコンベンションを呼ぶ

平成30年度に改築が完了する予定の久留米総合スポーツセンターを中心に、新規の国際大会や全国大会などのスポーツコンベンションの誘致に積極的に取り組みます。特に、平成32年に開催が決定した「東京オリンピック・パラリンピック」のキャンプ地について、誘致を働きかけます。

基本策 4 久留米ならではのユニークベニユーを提案する

これまでも中心商店街を活用したユニークベニユーなどが実施されてきましたが、こうした取り組みやアフターコンベンションの提案は、MICEの誘致・開催には非常に重要な要素です。今後は、久留米の強みを最大限に活かし、久留米を満喫できるような提案を行い、参加者の市内宿泊・連泊につながる取り組みを行います。

基本策 5 MICE誘致・開催支援における人材を育成する

MICEの企画、運営、誘致などにおける専門性の高い人材や、MICEを総合的に支援できる「MICEコンシェルジュ」とも言える人材の育成と確保に取り組めます。また、MICE主催者や参加者が十分な満足が得られるように、ワンストップで必要なサービスが受けられるような仕組みづくりや推進体制の構築を図ります。

恵

まれた交通アクセスと、新たに整備・充実されるMICE関連施設を活用し、久留米市の特徴を活かす医療系や工学系の学会、スポーツコンベンションの誘致に取り組み、久留米市での開催を積極的に働きかけます。これにより、久留米市への新たな来訪を促すとともに、次の観光誘客へつなげていきます。

また、久留米市の魅力を活かしたアフターコンベンションやユニークベニユーを提案し、久留米市への滞在時間の長期化を図り、地域経済への波及拡大に努めます。さらに、そのための人材育成と組織を構築し、充実を図っていきます。

久留米シティプラザ

(完成予想図)



ザ・グランドホール



六角堂広場



大会議室



賑わい交流施設



展示室



Cボックス



久留米座

”ほとめきのまち“の高みを極める基盤づくり

ほとめき人材の育成と組織づくり

久

留米市は、平成17年に「ほとめき宣言」を行い、久留米を訪れる観光客を温かく迎える意気込みを示しました。また、「観光・コンベンション振興基本計画」では、目指す観光のまち像として「ほとめきのまち久留米」を掲げ、さまざまな事業に取り組んできました。平成25年の東京オリンピック招致でも、「おもてなし」が重要なキーワードとなったように、「ほとめき」はこれからの観光振興においても重要な視点と言えます。本プランでは、前計画の方針を引き継ぎ、より多くの市民が久留米の魅力に気付き、「ほとめきコンシェルジュ」として観光客に伝え、温かく迎えることができるように努めていきます。今後も久留米市の観光振興を担う人材の発掘や育成、さらに組織化を進めることで、着実に「ほとめきのまちづくり」を推進していきます。

積極的に観光商品や土産品を開発し、また、それらを効果的に活用できる組織、体制づくりを行います。加えて、観光振興に関わる既存の組織についても、課題解決や改善に努め、各組織が観光振興を通して経済活性化に意欲的に取り組むことができる環境を整えていきます。これらの取り組みにより、市民や関係団体、市が協働して、全市民的な観光まちづくりの機運醸成と人材育成を図ります。

2 地域密着観光を推進する

市内のエリアごとに展開されている地域密着観光について、地域の特性や個性が活かされ、より魅力的な観光商品などの造成を目指し、地域住民が主体となって展開する取り組みを支援します。そして、より多くの市民が「ほとめき」の心で参画する観光のまちづくりの機運を高めます。

3 久留米まち旅博覧会をさらに盛り上げる

すでに高い人気を誇る「久留米まち旅博覧会」は、地域の魅力の再発見と感動体験に結び付き、参加者の高い満足度を実現しています。そして、こうしたプログラムは、外国人に対しても魅力的な観光商品となる可能性が高いと言えます。引き続き、これまでのプログラムの見直しや新たな掘り起こし、拡充を図るとともに、受け入れ体制の充実、強化に努めます。また、プログラムを企画し提供することで、観光振興に携わる市民の裾野の拡大に結び付けていきます。

4 観光ボランティアガイドを充実する

ほとめきの観光振興のためには、市民一人ひとりが主体となり、地域のさまざまな魅力と感動を伝える観光ボランティアガイドの存在が非常に重要です。今後もガイドの発掘と育成を図り、自主運営が可能な組織を構築するとともに、観光客の満足度向上につながる研修プログラムの確立などを積極的に進めていきます。

滞在環境のバリアをなくし、リピーター獲得をねらう

ほとめき観光の基盤づくり

久

留米市を訪れた観光客に「もう一度来てみたい」と思われるためには、久留米市での滞在を快適に過ごしてもらうことが重要です。観光案内サインや観光マップ、道路サインなどの充実を図るとともに、駐車場などの環境の整備、充実に取り組みます。また、サイン表示の多言語化を図り、外国人観光客にも対応できる基盤整備を図ります。

1 観光基盤を充実する

初めて久留米を訪れた観光客でも、久留米の観光名所や魅力が分かり、ストレスなく移動ができるように、観光案内サインや道路系サインなど観光基盤の整備、充実を図ります。そして、さまざまなニーズに対応できるように、サイン表示の多言語化や観光施設などにおけるWi-Fi環境の整備を進めます。また、観光客の増加に伴い、新たに必要になる設備の整備を進め、来訪者の記憶に残る景観や町並みの整備にも努めます。あわせて、高齢者や身体障害者なども快適に観光を楽しむことができるように、ユニバーサルツーリズムの視点からのまちづくりに取り組みます。

2 集客交流施設を活かす

平成26年7月に作成された公共施設白書によれば、市内には約600の公共施設があり、そのうち、市民文化系や社会教育系、スポーツ・レクリエーション系などの集客に結び付くと思われるものは、スポーツ利用を含め全体の23.8%となっています。交流人口の拡大の観点からは、施設間連携や施設とMICEとの連動は新たな可能性を秘めていると考えられ、今後はこうした活用にも力を入れていきます。



7 観光客のニーズをふまえた情報戦略

久 久留米市の魅力を多くの人に知ってもらい、来訪を促すためには、ターゲットごとのニーズに応じた的確なアピールを行うことが必要です。マーケティングに取り組み、その結果をふまえ、久留米市の魅力や個性を活かせる観光誘客の絞り込みを図り、効果的な情報発信やプロモーション活動に結び付け、地域経済への波及を図っていきます。

基本方針 1 観光客のニーズを知る

ホテルなどの宿泊客を中心にアンケート調査などを実施し、観光客の属性や来訪目的、ニーズなどの把握に努めます。また、観光案内所や電話での問い合わせ内容についても統計的な整理と分析を行います。

さらに、こうしたデータを蓄積することにより、地域の観光資源がどのような観光客に人気があるのかを分析します。また、市民や観光客のモニタリングを実施し、消費者の目線で観光商品や土産品の開発に努めます。

これらの取り組みにより、観光商品やお土産品のトレンドや可能性を探り、新たな久留米の魅力づくりや情報発信に結び付けていきます。

基本方針 3 戦略的に情報を発信する

公式観光ウェブサイト「ほとめきの街久留米」などへの情報掲載を確実にしていきます。そして幅広く、かつ情報が必要とする人に対して直接的に情報が届くように、SNSの拡散性を活用します。

さらに、従来の文字や写真に加え、より高い訴求力や効率性が期待できる動画での情報発信に積極的に取り組み、また、事業やイベントの告知では、計画的にマスメディアへの情報提供を行い、広告効果をねらいます。

一方、情報端末の視点からは、アプリの開発など、スマートフォンやタブレット型端末での情報入手のニーズに対応できる仕組みを構築します。

基本方針 4 新たな視点で魅力を発信する

テレビや映画などの舞台として取り上げられることは、久留米の魅力をより凝縮して多くの人に発信できる好機と言えます。この機会をより多く得られるよう関係団体と連携し、情報の共有に努めます。

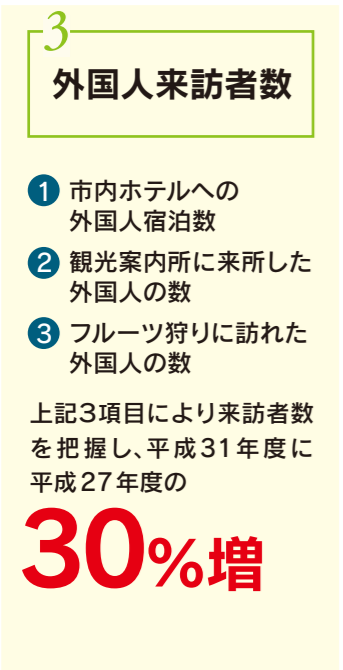
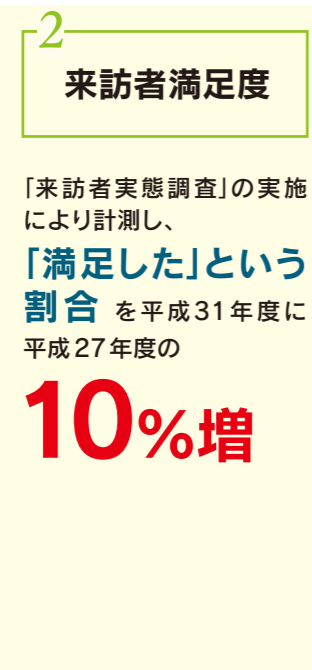
また、近年注目を集めているアニメや漫画などのサブカルチャーも新たな誘客の素材として積極的に受け入れ、「聖地」としてファンから認知されることも視野に入れた、情報発信などによる支援を行います。

戦略プランの数値目標

2015
▼
2019

本戦略プランを計画的・効果的に推進していくために、戦略プランの目標の達成度を確認する目標値を設定し、5年後の目指すべき姿とします。

この目標値を指標として戦略プラン推進の進捗を把握することにより、久留米市の観光・MICE振興の政策全般での計画推進の成果を評価し、次期計画策定の際に見直しなどを図るものとしします。



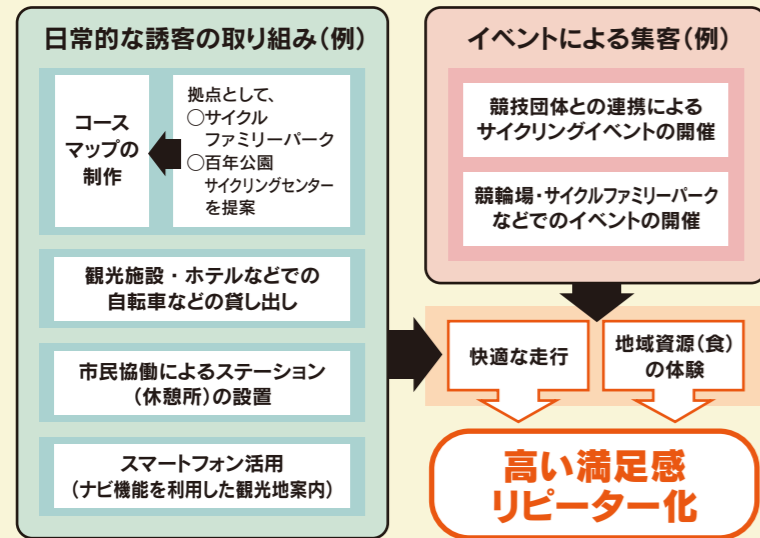
リーディングプロジェクト

Leading project

本プランを推進し、成果目標を達成するために必要な事業を「リーディングプロジェクト」として設定し、特に優先的に実施します。

事業イメージ

主なターゲット **サイクリング愛好家から初心者まで**



Point

- 久留米連携中核都市圏(仮称)での連携事業として実施し、うきは市との連携による「筑後川・耳納北麓コース(仮称)」など、スケールの大きなコース展開を可能にする。
- マップは多言語対応とし、外国人愛好家にも紹介。

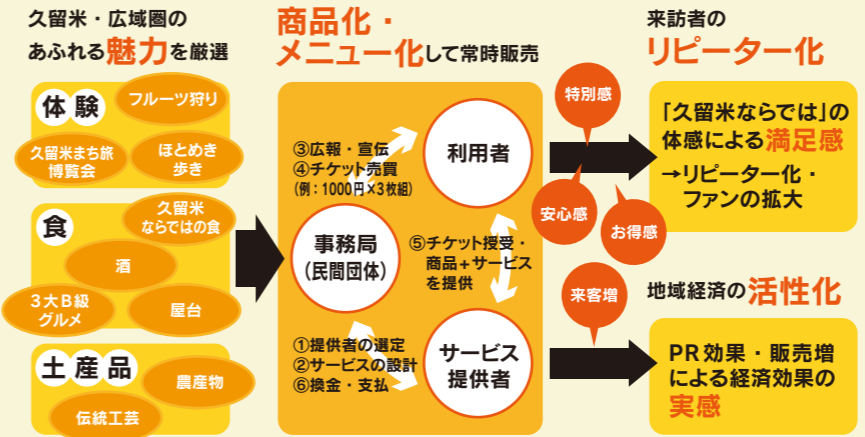
久留米を **楽しむ!**
「くるくる自転車プロジェクト」

「みどりの里・耳納風景街道」や「耳納スカイライン」、「筑後川サイクリングロード」などを活かすサイクリングコースの提案、ホテルへのレンタサイクルや用具の設置などによる日常的な取り組みに加え、広域的なサイクリングイベントを開催します。また、観光拠点に設置するレンタサイクル、中心市街地のコミュニティサイクル、さらには競輪場やサイクルファミリーパークを活用し、久留米を満喫できるサイクルツーリズムを推進します。

活動指標
平成31年度の
イベント参加者、サイクル
ファミリーパーク入園者、
レンタサイクル利用者数の
合計数目標 **35,000人**

事業イメージ

主なターゲット **初めて久留米を訪れたMICE参加者・ビジネス客など**



Point

- 久留米連携中核都市圏(仮称)での連携事業として実施し、圏域の多彩な魅力を提供。
- MICEサポート窓口(久留米市MICE開催支援協議会・KMS(仮称))による取扱いのほか、チケット付宿泊プラン(ホテルなどのタイアップ)やバックツアー(旅行業者とのタイアップ)などによる商品展開。
- 販売手数料収入による事務局の自主運営が可能。
- 商品を磨き上げ、提供し続けることによる提供者のホスピタリティ向上。
- パンフレットなどのPRツールは多言語対応とし、外国人旅行者にも紹介。

久留米を **楽しむ!**
「くるくるチケットプロジェクト」

久留米を訪れた国内外の観光客やMICE参加者が「久留米らしさ」があふれる魅力を感じて安心して満喫できるように、厳選された観光資源や食、体験、お土産などを、あらかじめ購入したチケットでお得に楽しむことができる仕組みをつくり出します。これにより、観光・MICEの振興を久留米地域での消費行動に結び付け、地域経済の活性化につなげていきます。

活動指標
平成31年度の
年間延べ利用者数目標
10,000人

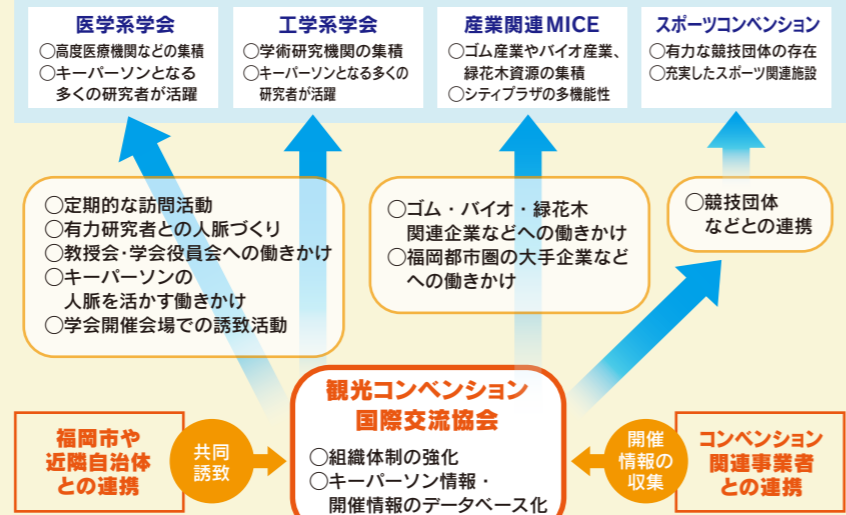
久留米に **集まる!**
「くるくるMICEプロジェクト」

平成28年に開館予定の「久留米シティープラザ」や平成30年に改築が完了する予定の「久留米総合スポーツセンター」を開館拠点とし、久留米の強みをふまえてターゲットを絞ることで、地域特性を活かす「久留米ならではのMICE誘致・開催支援を行い、さらに、MICE開催による経済効果を確実に地域に波及させます。」

活動指標
平成31年度の
MICE開催支援件数目標
100件

事業イメージ

ターゲットとする分野・強み



Point

- 新たな開催支援補助制度の構築
- 関連事業者などと連携した、久留米市MICE開催支援協議会(仮称)によるワンストップ支援サービス
- リーディングプロジェクトIを活用したアフターコンベンションの提案
- ユニークメニューの企画提案
- 宿泊施設整備支援制度の構築

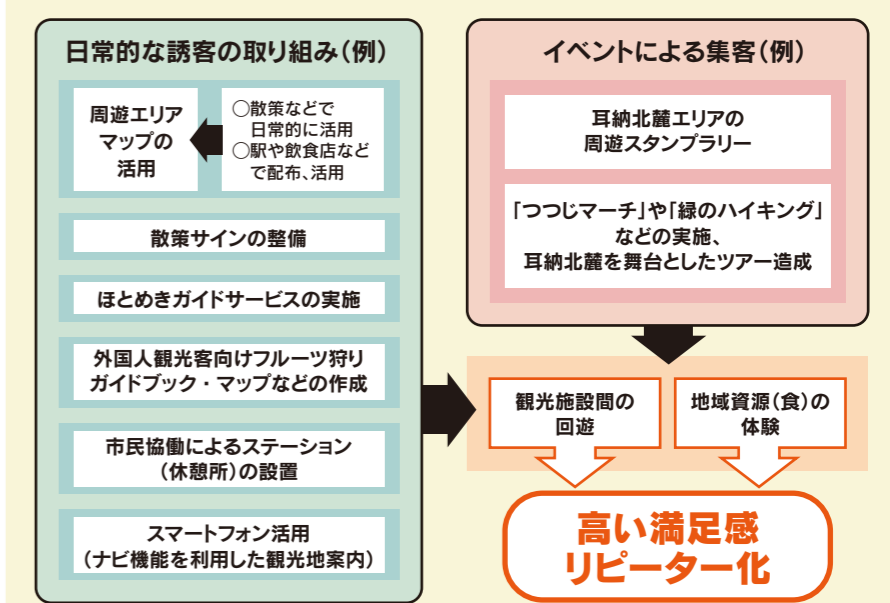
久留米を **周遊る!**
「ぶらぶら耳納北麓プロジェクト」

豊かな自然と景観に育まれた「みどりの里・耳納風景街道」や草野の町並み、高良山などの魅力を活かし、耳納北麓エリアに観光客を誘導します。そして、散策やウォーキング、レンタサイクルなどで周遊してもらうことで、賑わいをつくりだすとともに、地域経済の活性化に結び付ける周遊型ツーリズムを推進します。

活動指標
平成31年度の
耳納北麓エリア観光入込客数
目標 **230万人**

事業イメージ

主なターゲット **観光客・MICE参加者**



Point

マップは多言語対応とし、外国人観光客などにも紹介。